

秋田県埋蔵文化財センター一年報

43

令和6年度

2025・8

秋田県埋蔵文化財センター

シンボルマークは、北秋田市白坂（しろざか）遺跡出土の
「岩偶」です。

縄文時代晩期初頭、1992年8月発見、高さ7cm、凝灰岩。

序

秋田県埋蔵文化財センターは、県内に所在する埋蔵文化財の調査と研究を目的として昭和56年に設立された公的調査研究機関です。県内で実施される国道、ダム建設等の公共事業に伴う遺跡の記録保存のための緊急発掘調査を行っており、その調査成果を基にした活用事業にも取り組んでおります。

令和6年度の緊急発掘調査事業は、男鹿市1遺跡、秋田市1遺跡、由利本荘市2遺跡、にかほ市1遺跡、美郷町1遺跡、横手市2遺跡の合計8遺跡で実施しました。男鹿市の上宮ノ沢遺跡では、縄文時代前期の捨て場から多くの円筒下層式土器が出土しました。秋田市の道女木遺跡では、雄物川中流の自然堤防上で、縄文時代の焼土遺構や中世のカマド状遺構といった火を使った痕跡が見つかり、幾度も洪水に見舞われながら長期にわたり同じ場所を繰り返し利用していたことが分かりました。美郷町の上野乙遺跡では、縄文時代の終わりから弥生時代の初め頃のお墓と考えられる穴が複数見つかりました。完形の土器が据え置かれた穴もあり、副葬品として遺体と一緒に葬られたと考えられます。横手市の本町遺跡では、江戸時代の堀や土塁が確認され、横手城の城下町の様子的一端を知ることができました。また、トイレ状遺構からはさまざまな種類の種子が土洗いによって検出され、当時の食生活等を具体的に知るための資料を得ることができました。

令和6年度の活用事業としては、発掘調査報告会を開催し、これに合わせて県立図書館において、出張展示「あきた遺跡発掘最前線！2024」を開催し、今年度の発掘調査の成果を県民に情報発信することができました。また、あきた芸術劇場ミルハスで國學院大学の谷口康浩教授と東京都立大学の山田康弘教授を講師にお招きした講演会を2回開催し、縄文時代に思いを巡らせていただきました。その他、セカンドスクール、出前授業、出張展示等多くの要望に応じて参りました。

本書は、令和6年度に秋田県埋蔵文化財センターが実施した事業活動をまとめたものであります。

今後とも当センターの関連事業につきましては、より一層の御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和7年3月

秋田県埋蔵文化財センター

所 長 磯 村 亨

目 次

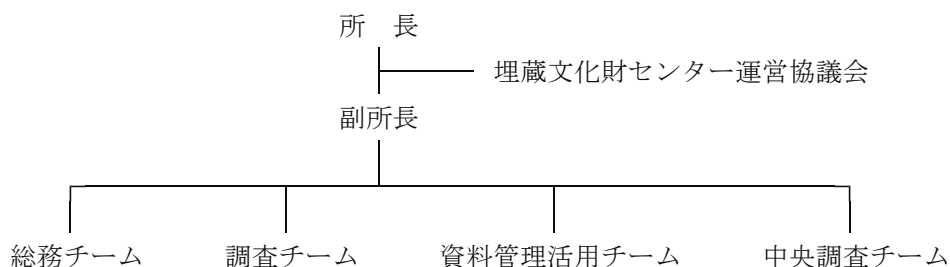
第1章 沿革・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1	(6) 講座の動画配信・・・・・・・・・・	31
第2章 組織・施設		5 体験教室	
第1節 組織・・・・・・・・・・・・・・・・	2	(1) 主な体験メニューと概要・・・・	33
第2節 施設の概要・・・・・・・・・・	2	(2) オープンラボ・・・・・・・・・・	34
第3章 令和6年度のあゆみ・・・・・・・・	3	(3) 払田柵跡の歩き方・・・・・・・・	35
第4章 事業の概要		6 学校利用・研修等	
第1節 発掘調査事業		(1) セカンドスクールの利用・・・・	35
1 発掘調査一覧		(2) インターンシップ・職場体験・・	36
(1) 発掘調査・・・・・・・・	5	(3) 博物館実習・・・・・・・・・・	36
(2) 確認調査・・・・・・・・	5	(4) 中堅教諭等資質向上研修・・・・	36
(3) 整理・・・・・・・・・・	5	7 貸し出し	
(参考) 教育庁払田柵跡調査事務所・・	6	(1) 貸し出しキット等・・・・・・・・	37
(参考) 市町村教育委員会等による		(2) 資料貸し出し・・・・・・・・・・	37
発掘調査一覧・・・・・・・・	7	(3) レファレンス・・・・・・・・・・	37
2 発掘調査概要		第3節 その他の活動	
(1) 寺沢遺跡・・・・・・・・	8	1 図書整理・公開	
(2) 本町遺跡・・・・・・・・	10	(1) 全国文化財総覧への公開・・・・	38
(3) 虫内Ⅰ遺跡・・・・・・・・	12	(2) 秋田県立図書館「デジタルアーカ	
(4) 上野乙遺跡・・・・・・・・	14	イブ」への一般公開・・・・	38
(5) 本荘城跡・・・・・・・・	16	2 刊行物・・・・・・・・・・	38
(6) 上宮ノ沢遺跡・・・・・・・・	18	3 講演・研究論文等・・・・・・・・	39
(7) 岩ノ下遺跡・・・・・・・・	20	4 職員研修会	
(8) 道女木遺跡・・・・・・・・	22	(1) 職員研修・・・・・・・・・・	40
第2節 活用・普及事業		(2) 職員技術研修会・・・・・・・・	40
1 活用・普及事業一覧表・・・・	24	(3) 職員研修・・・・・・・・・・	40
2 遺跡現地見学会・・・・・・・・	25	(4) 防災・避難訓練、救急救命講習・	40
3 展示		(5) 全国公立埋蔵文化財センター	
(1) 常設展・・・・・・・・・・	25	連絡協議会北海道・東北ブロッ	
(2) 企画コーナー展・・・・	25	ク会議・・・・・・・・・・	41
(3) あきた埋文出張展示・・・・	25	第5章 運営協議会	
4 講演会・講座		1 委員・・・・・・・・・・	42
(1) 講演会・・・・・・・・・・	26	2 事務局・・・・・・・・・・	42
(2) あきた埋文考古学セミナー・・	27	3 第1回・・・・・・・・・・	42
(3) あきた埋文金曜講座・・・・・・・・	28	4 第2回・・・・・・・・・・	42
(4) あきた県庁出前講座・・・・	29	令和6年度 職員名簿・・・・・・・・	44
(5) 埋蔵文化財発掘調査報告会・・	31		

第1章 沿革

昭和55年 2 月	秋田県埋蔵文化財センター設立計画公表
昭和55年10月26日	建設工事開始
昭和56年 8 月31日	センター、第1収蔵庫完成
昭和56年10月 1 日	設置条例施行、職員発令、業務開始
昭和56年11月 2 日	落成記念式典挙行
平成 5 年 1 月	第2収蔵庫完成
平成10年 4 月 2 日	鷹巣町（現北秋田市鷹巣）に秋田北分室開設
平成11年12月20日	秋田市に秋田整理室開設
平成12年 4 月 4 日	秋田整理室が秋田中央分室となる
平成13年 4 月 2 日	機構改革により南調査課、北調査課、中央調査課の3課体制となる
平成13年 6 月20日	秋田県甘肅省文化交流事業により交流員の相互交流開始
平成14年 3 月 2 日	秋田県埋蔵文化財センター設立20周年記念式典挙行
平成15年10月17日	秋田県甘肅省文化交流事業磨嘴子遺跡合同発掘調査開始
平成15年10月30日	センター屋根、外壁、内部大規模改修工事
平成17年 4 月 1 日	男鹿市に中央調査課男鹿整理収蔵室開設
平成20年 3 月31日	北調査課、中央調査課閉課
平成20年 4 月 1 日	機構改革により総務班・調査班・資料管理活用班・中央調査班の4班体制となる。
平成22年 7 月 1 日	秋田市に中央調査班移転
平成24年 3 月 6 日	秋田県埋蔵文化財センター設立30周年記念式典挙行
平成28年 9 月 4 日	秋田県埋蔵文化財センター設立35周年記念講演会開催
令和 3 年	秋田県埋蔵文化財センター設立40周年記念式典 *新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止とした。
令和 5 年 9 月15日	秋田県埋蔵文化財センター設立40周年記念コラム「土に聴け」（秋田魁新報社）発刊

第2章 組織・施設

第1節 組織



第2節 施設の概要

本所（総務チーム・調査チーム・資料管理活用チーム）

所在地 〒014-0802 秋田県大仙市払田字牛嶋20番地

TEL 0187-69-3331 FAX 0187-69-3330

敷地面積 6,962.00㎡

本所建物 鉄筋コンクリート2階建 1,527.30㎡

第1収蔵庫 鉄骨造平屋建 360.00㎡

第2収蔵庫 鉄骨造平屋建 297.68㎡

電気・ポンプ室 平屋建 59.78㎡

中央調査チーム

所在地 〒010-1621 秋田県秋田市新屋栗田町11-1

TEL 018-893-3901 FAX 018-893-3899

建物 鉄筋コンクリート平屋建 2,141.00㎡

男鹿収蔵庫

所在地 〒010-0502 秋田県男鹿市船川港比詰字餅ヶ沢200

敷地面積 55,521.00㎡

建物 鉄筋コンクリート3階建 7,524.36㎡

第3章 令和6年度のあゆみ

【令和6年】

- 4月1日 新任式（本所・中央）
- 4月26日 企画コーナー展「埋文あきた発掘展～秋田の新たな歴史の1ページ～」(～3/31)
- 5月8日 大堤沢遺跡確認調査（～5/14）
- 5月28日 虫内Ⅰ遺跡発掘調査（～6/25）
- 5月28日 上宮ノ沢遺跡発掘調査（～8/2）
- 6月4日 本荘城跡発掘調査（～7/25）
- 6月7日 第1回金曜講座「縄文時代の横手盆地」新海和広
- 6月8日 オープンラボ「バラフェスタ」（農業科学館）
- 6月11日 第1回運営協議会
- 6月18日 寺沢遺跡発掘調査（～8/29）
- 6月28日 第1回職員研修会「東京・インドネシア奮闘報告」久住駿介
- 7月4日 本町遺跡発掘調査（～11/8）
- 7月5日 第2回金曜講座「深澤多市と払田柵跡～深澤多市書簡からみる史跡指定の経過」渡部猛氏
- 7月9日 道女木遺跡発掘調査（～11/20）
- 7月13日 第1回出張展示「払田柵跡調査成果展」（県立図書館～8/13）
- 7月13日 考古学セミナー「秋田の縄文文化ー北と南ー」新海和広（にかほ市象潟公民館）
- 7月20日 本荘城跡現地見学会
- 7月23日 湯沢翔北高校中堅教諭等資質向上研修（7/30）
- 7月24日 オープンラボ「払田柵跡ふるさと体験ワークショップ」（仙北ふれあい文化センター）
- 7月27日 体験教室「払田柵跡の歩き方」（史跡払田柵跡）
- 7月30日 オープンラボ「縄文体験」（秋田市農山村地域活性化センターさとびあ）
- 7月30日 岩ノ下遺跡発掘調査（～10/31）
- 7月31日 角館高校インターンシップ（～8/1）
- 7月31日 雄物川小学校中堅教諭等資質向上研修（～8/1）
- 8月2日 第3回金曜講座「出土文字資料からみる秋田」伊豆俊祐氏
- 8月6日 上野乙遺跡発掘調査（～9/27）
- 9月6日 第4回金曜講座「律令官人の栄養学～横手盆地の出土土器と文字資料から～」藤原正大氏
- 9月7日 道女木遺跡現地見学会
- 9月14日 考古学セミナー「秋田の縄文文化ー北と南ー」新海和広（秋田市農山村地域活性化センターさとびあ）
- 9月18日 仙北中学校職場体験（～9/19）
- 9月30日 甘肅省研修員来所（～10/2）
- 10月4日 第5回金曜講座「地中レーダー探査から読み解く雄勝城」高橋学氏
- 10月5日 第2回出張展示「土器に生ける秋の草花展」（農業科学館～10/14）
- 10月14日 第1回講演会「遺跡から読み解く縄文人の世界観」谷口康浩氏（あきた芸術劇場ミルハス）
- 10月15日 百宅滝ノ上遺跡・高野台遺跡確認調査（～10/31）
- 10月25日 避難訓練

- 10月26日 オープンラボ「オータムフラワーフェスタ」(農業科学館)
- 11月1日 第6回金曜講座「三種町堂の下遺跡と八郎潟周辺の遺跡」磯村亨
- 11月4日 第2回講演会「新しい研究方法からみた縄文時代の生業と社会」山田康弘氏(あきた芸術劇場ミルハス)
- 11月5日 藤兵エ沢遺跡確認調査(～11/21)
- 11月30日 考古学セミナー「秋田の縄文文化ー北と南ー」新海和広(大館市立中央公民館)
- 12月6日 第7回金曜講座「縄文時代の盛土遺構ー秋田県能代市茱萸ノ木遺跡を中心にー」大上立朗
- 12月20日 第2回職員研修会「ききなしのすすめ」大泉真

【令和7年】

- 1月10日 第8回金曜講座「アキタにヒトがやってきた頃の話ー雄物川下流域における後期旧石器時代前半期の研究ー」神田和彦氏
- 1月25日 第3回出張展示「古代城柵・払田柵跡と横手盆地の集落遺跡」(雄物川郷土資料館～3/16)
- 2月3日 第2回運営協議会
- 2月6日 発掘調査報告会リハーサル
- 2月7日 第9回金曜講座「横手市の遺跡から見る後三年合戦」島田祐悦氏
- 3月1日 第4回出張展示「あきた遺跡発掘最前線！2024」(県立図書館～3/11)
- 3月8日 秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会(仙北ふれあい文化センター)
- 3月28日 退任式・離任式

第4章 事業の概要

第1節 発掘調査事業

1 発掘調査一覧

(1) 発掘調査

No.	遺跡名	事業名等 原因者	所在地 調査期間	面積 (㎡)	主な時代：性格
1	寺沢遺跡	国道7号遊佐象潟道路事業 国土交通省（秋田河川国道）	にかほ市象潟町小砂川 6/18～8/29	1,300	縄文：狩猟場 平安：生産遺跡
2	本町遺跡	地方街路交付金事業都市計画 道路八幡根岸線 県都市計画課	横手市本町 7/4～11/8	1,292	中世：集落跡 近世：城下町
3	虫内Ⅰ遺跡	秋田自動車道の暫定2車線区 間の4車線化事業 東日本高速道路株式会社	横手市山内土渕 5/28～6/25	235	縄文：墓域
4	上野乙遺跡	県単道路改築事業主要地方道 角館六郷線 県道路課	仙北郡美郷町土崎 8/6～9/27	690	縄文：墓域
5	本荘城跡	国道107号建設事業 県道路課	由利本荘市尾崎 6/4～7/25	150	近世：城館跡
6	上宮ノ沢遺跡	地方道路交付金工事一般国道 101号建設事業 県道路課	男鹿市男鹿中山町 5/28～8/2	720	縄文：集落跡
7	岩ノ下遺跡	鳥海ダム建設事業 国土交通省（鳥海ダム）	由利本荘市鳥海町 百宅 7/30～10/31	3,700	中近世：集落跡
8	道女木遺跡	雄物川水系直轄河川事業 国土交通省（秋田河川国道）	秋田市雄和種沢 7/9～11/20	2,400	縄文：集落跡

(2) 確認調査

No.	遺跡名	事業名等 原因者	所在地 調査期間	面積 (㎡)	主な時代：性格
1	大堤沢遺跡	秋田自動車道の暫定2車線区 間の4車線化事業 東日本高速道路株式会社	横手市山内 5/8～5/14	1,200	縄文：狩猟地
2	藤兵エ沢遺跡	秋田自動車道の暫定2車線区 間の4車線化事業 東日本高速道路株式会社	横手市前郷 11/5～11/21	6,600	縄文：狩猟採集 地
3	百宅滝ノ上遺 跡	鳥海ダム建設事業 国土交通省（鳥海ダム）	由利本荘市鳥海町 百宅 10/15～10/31	3,000	縄文：散布地
4	高野台遺跡	鳥海ダム建設事業 国土交通省（鳥海ダム）	由利本荘市鳥海町 百宅 10/15～10/31	13,000	中世：散布地

(3) 整理

No.	遺跡名	事業名等 原因者	所在地 調査年度	面積 (㎡)	主な時代：性格
1	小平沢出口 遺跡	雄物川上流河川改修事業 国土交通省（湯沢河川国道）	大仙市協和峰吉川 令和4年度	1,050	縄文：散布地 中世：集落跡
2	北ノ又沢Ⅲ 遺跡	成瀬ダム建設事業 国土交通省（成瀬ダム）	東成瀬村椿川 令和3・4年度	2,742	縄文：キャンプ サイト・墓域 弥生：キャンプ サイト

3	立浪遺跡	国道13号横堀道路事業 国土交通省（湯沢河川国道）	湯沢市下院内 令和4・5年度	7,900	縄文：集落跡・墓域 弥生：墓域
4	大鍋遺跡	国道13号真室川雄勝道路事業 国土交通省（湯沢河川国道）	湯沢市上院内 令和4年度	850	縄文：キャンプサイト
5	ヲフキ遺跡	国道7号遊佐象潟道路事業 国土交通省（秋田河川国道）	にかほ市象潟町大砂川 令和3・4・5年度	2,100	縄文：集落跡・墓域
6	大南遺跡	国道7号遊佐象潟道路事業 国土交通省（秋田河川国道）	にかほ市象潟町大須郷 令和3年度	2,500	縄文～近世：散布地
7	寺沢遺跡	国道7号遊佐象潟道路事業 国土交通省（秋田河川国道）	にかほ市象潟町小砂川 令和5年度	3,300	縄文：狩猟場 平安：生産遺跡
8	福島遺跡	交通安全対策事業（通学路対策） 県道路課	羽後町足田 令和5年度	3,220	縄文：集落跡
9	本町遺跡	地方街路交付金事業都市計画道路八幡根岸線 県都市計画課	横手市本町 令和6年度	1,292	中世：集落跡 近世：城下町
10	虫内Ⅰ遺跡	秋田自動車道暫定2車線区間4車線化事業 東日本高速道路株式会社	横手市山内土渕 令和6年度	235	縄文：墓域
11	上野乙遺跡	県単道路改築事業主要地方道角館六郷線 県道路課	仙北郡美郷町土崎 令和6年度	690	縄文：墓域
12	神田遺跡	国道7号遊佐象潟道路事業 国土交通省（秋田河川国道）	にかほ市象潟町洗釜 令和2年度	5,250	縄文：集落跡
13	大巻Ⅰ・Ⅱ遺跡	雄物川水系直轄河川改修事業 国土交通省（秋田河川国道）	秋田市雄和新波 令和4・5年度	8,020	縄文：キャンプサイト・集落跡 平安：集落跡 中世：集落跡
14	大道遺跡	国道7号遊佐象潟道路事業 国土交通省（秋田河川国道）	にかほ市象潟町関 令和5年度	2,600	縄文：集落跡
15	坂三塔遺跡	一般県道植田平鹿線建設事業 県道路課	横手市十文字町越前 令和5年度	850	縄文：集落跡
16	本荘城跡	国道107号建設事業 県道路課	由利本荘市尾崎 令和5・6年度	344	近世：城館跡
17	上宮ノ沢遺跡	地方道路交付金工事一般国道101号建設事業 県道路課	男鹿市男鹿中山町 令和6年度	720	縄文：集落跡
18	岩ノ下遺跡	鳥海ダム建設事業 国土交通省（鳥海ダム）	由利本荘市鳥海町百宅 令和6年度	3,700	中近世：集落跡
19	道女木遺跡	雄物川水系直轄河川事業 国土交通省（秋田河川国道）	秋田市雄和種沢 令和6年度	2,400	縄文：集落跡

（参考）教育庁払田柵跡調査事務所

No.	遺跡名	調査目的	所在地 調査期間	面積 (㎡)	主な時代・性格
1	史跡払田柵跡 (第158次)	遺構内容確認調査	大仙市払田・美郷町本堂城回 6/3～8/2	144	平安：城柵官衙跡

(参考) 市町村教育委員会等による発掘調査一覧

No.	遺 跡 名	調 査 機 関 調査目的・事業名等	所 在 地 調査期間	面積 (㎡)	主な時代： 性格
1	大湯環状列石	鹿角市教育委員会 内容確認調査	鹿角市十和田大湯 字集宮 10/8～10/30	31	縄文：祭祀 遺跡
2	大館城跡	大館市教育委員会 事務所建築	大館市字三ノ丸 4/24～7/2	296	中世：城館 跡
3	金坂遺跡	大館市教育委員会 個人住宅建築	大館市字八幡 7/9～7/27	40	中世・近世 ：集落跡・ 屋敷跡
4	史跡檜山安東氏城 館跡（檜山城跡）	能代市教育委員会 内容確認調査	能代市檜山字古城 5/27～9/13	103	中世：城館 跡
5	船沢遺跡	能代市教育委員会 風力発電施設建設	能代市浅内字船沢 4/15～9/13	2,050	平安：集落 跡
6	平影野遺跡	能代市教育委員会 下水道水道橋設置工事	能代市向能代字平 影野 7/8～ 7/15・26・27	497	平安：集落 跡
7	関の台遺跡	三種町教育委員会 統合中学校建設事業	三種町森岳字関の 台 10/2～10/31	763	縄文・平安 ：遺物包含 地
8	下台遺跡	八郎潟町教育委員会 個人住宅建築	八郎潟町小池字岡 本下台 6/20～6/21	60	縄文：集落 跡
9	史跡秋田城跡 （第118次）	秋田市立秋田城跡歴史資料 館 内容確認調査・現状変更判 断	秋田市寺内 5/1～5/30	26	近世：城柵 官衙遺跡
10	史跡秋田城跡 （第119次）	秋田市立秋田城跡歴史資料 館 内容確認調査	秋田市寺内 5/27～8/9	66	奈良・平安 ・近世：城 柵官衙遺跡
11	史跡秋田城跡 （第120次）	秋田市立秋田城跡歴史資料 館 内容確認調査	秋田市将軍野南 8/19～9/30	161	奈良・平安 ・近世：城 柵官衙遺跡
12	井岡遺跡	由理柵・駅家研究会 内容確認調査	由利本荘市西目町 西目字井岡 9/28～10/10	60	奈良・平安 ：集落跡
13	長岡森館跡	美郷町教育委員会 町内遺跡保存目的調査	美郷町金沢字西長 岡森 6/3～7/18	114	縄文：遺物 包含地 平安：不明
14	下村遺跡	横手市教育委員会 農業関係開発事業	横手市平鹿町下吉 田字下村 5/1～7/31	2,560	平安・中世 ・近世：集 落跡
15	造山十足馬場遺跡	雄勝城・駅家研究会 内容確認調査	横手市雄物川町造 山字十足馬場 8/3～11/16	484	奈良：集落 跡
16	山田川原遺跡	湯沢市教育委員会 土砂採取事業	湯沢市山田字川原 10/28	71.47	縄文：集落 跡
17	上掬遺跡	東成瀬村教育委員会 内容確認調査	東成瀬村田子内字 菅生田掬 8/19～9/6	100	縄文：集落 跡

2 発掘調査概要

(1) 寺沢遺跡

①調査要項

所在地	秋田県にかほ市象潟町小砂川字寺沢
調査期間	令和6年6月18日～8月29日
調査面積	1,300㎡ (3,300㎡のうち)
遺跡の時代	縄文時代、平安時代
遺跡の性格	狩猟場（縄文時代）、生産遺跡（平安時代）
事業名	国道7号遊佐象潟道路事業
事業関係機関	国土交通省東北地方整備局秋田河川国道事務所
調査担当	結城智、矢尾健

②調査概要

検出遺構			主な出土遺物	
縄文時代	土坑	2基	縄文時代	土器、石器
平安時代	焼土遺構	1基		
	土坑	6基	平安時代	土師器（製塩土器含む）、須恵器
	柱穴様ピット	10基		

寺沢遺跡は、JR羽越本線小砂川駅の南東1.5kmに位置し、鳥海山山麓の西裾部、標高40～55mの丘陵地に立地している。

昨年度の調査区からは、縄文時代の陥し穴状遺構、平安時代の焼土遺構・土坑・河川跡が検出され、縄文時代の土器・石器、平安時代の土師器（製塩土器含む）・須恵器等が出土している。平安時代の河川跡は、鳥海山由来の巨礫で埋め尽くされており、巨礫間に製塩土器が散在していたことから、当時の土石流などの自然災害の痕跡と推定されている。

今年度の調査区は、上記河川跡の南側にあたる平坦地から斜面地である。遺物包含層は、後世の畑作により広範囲に攪乱を受けて、ほとんど残っていなかった。

調査区北側では、炭化物を含む焼土遺構が検出された。周辺の広い範囲で製塩土器をはじめ平安時代の遺物が出土していることから、この時期の製塩に関する遺構と推測される。

調査区南側では、砂が厚く堆積しており、辛うじて攪乱が地山まで及んでおらず、砂層の下の地山面から縄文時代の土坑が2基検出された。

遺物は、縄文時代の土器・石器、平安時代の土師器（製塩土器含む）・須恵器等が出土した。

縄文土器は、縄文時代前期前半の大木1、2式、中期後半の大木9式等で、昨年度の調査では後期の土器も出土している。このことから、この場所が縄文時代の比較的長い期間にわたり利用されていたと考えられる。

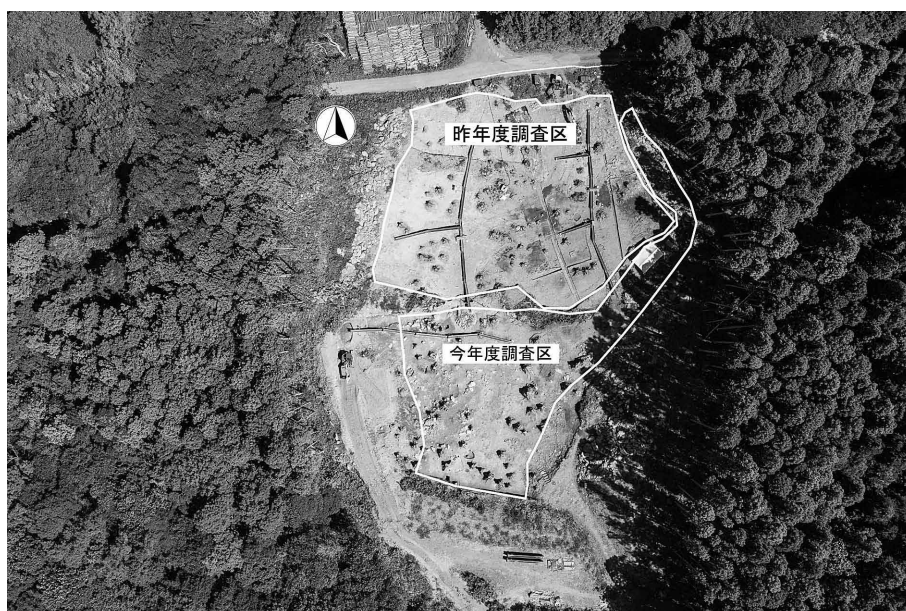
平安時代の土器では、製塩土器が河川跡や遺構外から多く出土した。同じ時期の製塩に関する遺構や遺物は、本遺跡の西0.4kmに所在するカウヤ遺跡でも見つかっており、この地域一帯で平安時代に製塩が行われていたことの一つの証左となる。

今後、日本海沿岸、特に由利本荘以南に点在する平安時代の製塩遺跡との関連性を調査し、遺跡の性格、特徴を明らかにしていきたい。

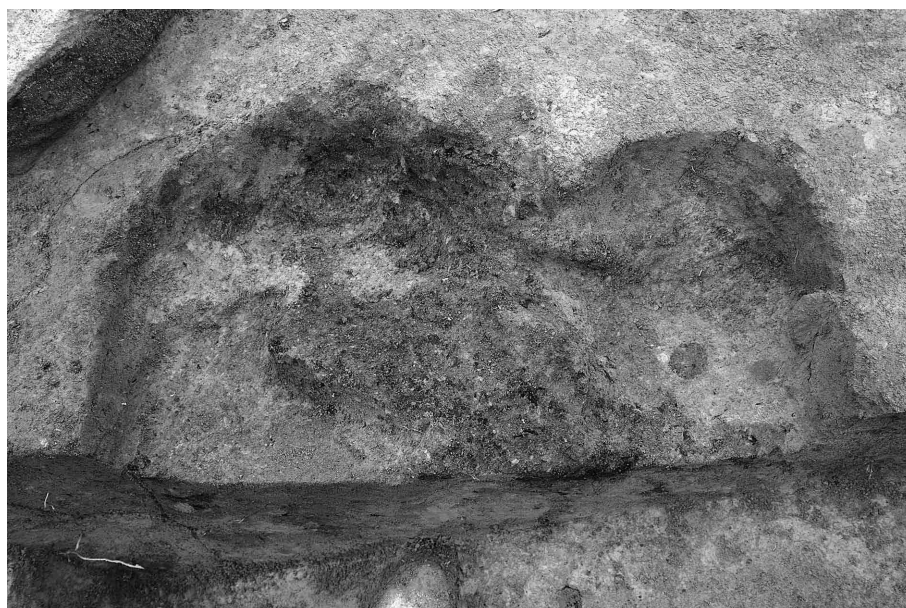
調査区全景
(南東から)



昨年度調査区と
今年度調査区近景の合成
(上空から)



焼土遺構SN107
半裁状況 (西から)



(2) 本町遺跡

①調査要項

所在地	秋田県横手市本町3番地、4番地
調査期間	令和6年7月4日～11月8日
調査面積	1,292㎡
遺跡の時代	縄文時代、古代、中世、近世
遺跡の性格	散布地（縄文時代）、集落跡（古代、中世、近世）
事業名	地方街路交付金事業都市計画道路八幡根岸線（根岸町工区）
事業関係機関	秋田県平鹿地域振興局建設部
調査担当	大上立朗、久住駿介

②調査概要

検出遺構					主な出土遺物	
古代・中世	井戸跡	1基	土坑	27基	縄文時代	土器、石器
	竪穴建物跡	3棟	竪穴状遺構	2基	古代・中世	土師器、須恵器、陶器、金属製品、木製品
	カマド状遺構	2基				
近世	堀・溝跡	3基	土塁	1基	近世	陶器、磁器、金属製品、木製品
	井戸跡	1基	竪穴状遺構	4基		
	土坑	8基	トイレ状遺構	2基		

本町遺跡は、JR奥羽本線横手駅の北東1.2km、横手市役所の北0.7kmに位置し、雄物川支流の横手川右岸に立地する。

調査区は、全域が近世横手城の城下町の一部である。発掘調査では、堀や土塁、陶磁器等といった近世の遺構、遺物が多く見ついている。近世以外にも、縄文時代、古代、中世の遺構、遺物が見つかり、複合遺跡であることが分かった。

調査区中央部では、堀と土塁が検出された。堀は、最大幅が8.8m、深さが2.7mあり、東西岸には土塁が南北方向に走っている。東岸の土塁は、基底部の最大幅が12.5mある。なお、土塁上部の大半は、後世の掘削によって残存していなかった。

調査区東側では、近世のトイレ状遺構、中世の井戸跡・土坑、古代の竪穴建物跡・土坑等が検出された。近世のトイレ状遺構は、底面に直径52cmの桶が埋設されており、底板の上から寛永通宝、種子が出土している。

調査区西側では、近世の竪穴状遺構・井戸跡・土坑、中世の竪穴建物跡・溝跡・カマド状遺構・土坑、古代の土坑等が見ついている。4基検出された近世の竪穴状遺構のうち、全体形が分かる1基は、長辺4.3m、短辺2.7mの長方形を呈し、南側に出入り口が付き、床面に焼土範囲が認められた。焼土の下は粘土層と焼土層の互層になっており、繰り返し火が用いられたと見られ、鍛冶炉の可能性がある。中世の竪穴建物跡は、2棟検出され、いずれも平面形は長方形を呈し、うち1棟の北側には出入り口が付く。縄文時代の遺構は確認されなかったが、土器・石器が見ついている。

今回の調査により、享保13（1728）年に作成された横手絵図だけでは分からない近世城下町の詳細や、縄文時代、古代、中世の様子も分かってきた。今後は、検出した遺構の精査を進め、当時の生活の様子を明らかにしていきたい。

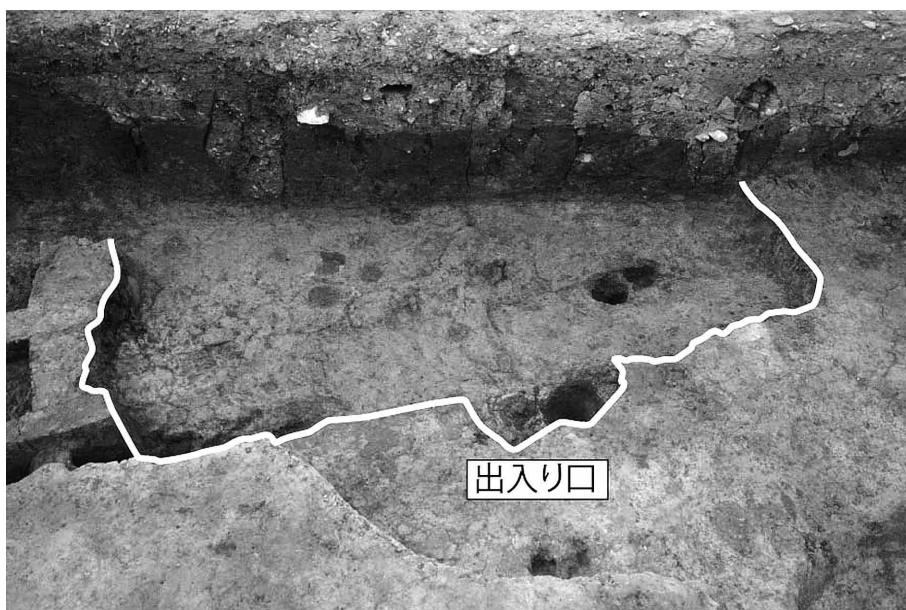
調査区中央部で
検出された堀の断面
（南から）



調査区東側で検出された
トイレ状遺構
（北から）



調査区西側で検出された
中世の竪穴建物跡
（北から）



(3) 虫内Ⅰ遺跡

①調査要項

所在地	秋田県横手市山内土渕字虫内
調査期間	令和6年5月28日～6月25日
調査面積	235㎡
遺跡の時代	縄文時代
遺跡の性格	集落跡、墓域
事業名	秋田自動車道の暫定2車線区間の4車線化事業
事業関係機関	東日本高速道路株式会社
調査担当	赤星純平、小松和平

②調査概要

検出遺構			主な出土遺物	
縄文時代	土坑	10基	縄文時代	土器
	土器埋設炉	1基		石器（石匙・凹石・磨石・石皿等）
	柱穴様ピット	62基		石製品（石剣）

虫内Ⅰ遺跡は、JR北上線相野々駅の西0.7kmに位置し、横手川西岸の標高105m前後の低位段丘上に立地する。遺跡の東側には、縄文時代中期後葉～後期前葉の集落跡と晩期前葉の墓域である虫内Ⅲ遺跡、遺跡の西側には、晩期前葉を中心とする虫内Ⅱ遺跡と、晩期前葉前後の墓域がある小田Ⅳ遺跡が所在する。

かつて、本遺跡は、秋田自動車道の暫定2車線部分の工事に伴い、平成3～5年度に発掘調査が行われている。この調査では、縄文時代後期後葉～晩期前葉の大規模な墓域が確認され、大人の墓とされる土坑墓171基と幼児の遺体を入れて埋葬したとされる土器棺墓153基を検出している。

今年度の調査区は、この墓域の北側に隣接している。調査では、縄文時代の土坑、土器埋設炉及び多数の柱穴様ピットが検出され、既調査区の北側にも墓域が広がることを確認できた。また、居住施設が存在する可能性があることも把握することができた。

土坑は、調査区全体に分布している。調査区南西側の土坑墓の可能性のあるものは、埋土中位まで人為的に埋められた上位に、同じ高さから複数の被熱した礫石器や扁平な礫が並べられた状態でまとまって出土している。

調査区南端では、長軸0.38m、短軸0.24mの範囲が焼土化した土器埋設炉を確認した。埋設土器の周りは、掘方底面の礫も含めて被熱している。後世の攪乱が比較的深くまで及んでいて、柱穴、壁溝は検出されなかったものの、黒色土の立ち上がりが付近の土層断面で認められており、竪穴建物跡に伴う炉の可能性が高い。

調査区中央部では、複数の柱穴様ピットが列状に並んだ状態で検出された。個々のピットの深さが違うことから建物を構成するものとは認められなかったが、調査区の東西の未発掘部分に連続する可能性がある。

今後、これまでの調査で見つかった遺構を総合的に検討することで、本遺跡の性格を明らかにしていきたい。

調査区全景
(上空から)



縄文時代の土坑
SK26 (西から)



土器埋設炉SN56
検出状況 (東から)



(4) 上野乙遺跡

①調査要項

所在地	秋田県仙北郡美郷町土崎字上野乙
調査期間	令和6年8月6日～9月27日
調査面積	690㎡
遺跡の時代	縄文時代～弥生時代
遺跡の性格	墓域
事業名	交通安全対策事業（通学路緊急対策）主要地方道角館六郷線（千屋第二工区）
事業関係機関	秋田県仙北地域振興局建設部
調査担当	小松和平、赤星純平

②調査概要

検出遺構			主な出土遺物	
縄文時代～弥生時代	土坑	5基	縄文時代～弥生時代	土器
	フラスコ状土坑	13基		石器
時期不明	土坑	4基		
	性格不明遺構	1基		
	柱穴様ピット	7基		

上野乙遺跡は、JR奥羽本線大曲駅の東8.9kmに位置し、標高64mの真昼川・釜淵川合成扇状地の扇中央部に立地する。調査区は、県道11号角館六郷線の歩道工事予定部分で、幅約7m、長さ約100mと南北に細長い。

調査の結果、土坑9基、フラスコ状土坑13基、柱穴様ピット7基、性格不明遺構1基が検出され、それぞれ切り合い関係がなかったことから、同時期に構築されたと考えられる。

調査区中央部では、土坑とフラスコ状土坑が集中して見つかった。この中の土坑1基には、地山土由来である黄褐色粘土が厚く堆積しており、底面の東端からは逆位の鉢形土器が出土した。土器は縄文時代晩期末葉～弥生時代前期初頭に属する。土器の出土状況から、この土坑は土器被覆葬を伴う土坑墓と考えられる。この土坑の検出面では、土坑の周辺からも地山土由来の黄褐色粘土が検出されていたため、土坑上面に盛土がなされていたと推察される。土坑内に堆積した黄褐色粘土は、遺体が分解されてできた空間に、土坑上面に盛られた黄褐色粘土が陥没したものと思われる。

また、完形の土器が出土したフラスコ状土坑が1基検出された。土器は土坑の中位付近の高さから出土し、前述した出土土器と同様に東側に寄っていた。この土器も縄文時代晩期末葉～弥生時代前期初頭に属する。土坑内に堆積した土の状況から、土器とともにある程度まで埋め戻し、その後は自然に埋まったと考えられる。土器は完形を保っているものの、土圧による変形が認められる。埋め戻されている痕跡が認められることから、前述した土坑と同様に土坑墓であったのではないかとと思われる。

他の土坑やフラスコ状土坑からは遺物がほとんど出土しなかったが、埋土の堆積状況から自然に埋まったもの、ある程度埋め戻されたものに二分される。今後、各土坑の底面から採取した土壌の理化学分析を行うとともに、他遺跡の調査例などから遺跡の性格を検討していきたい。

逆位の土器が出土した
状況
(南から)



完形の土器が出土した
状況
(東から)



調査区中央に集中
する土坑群
(南から)



(5) 本荘城跡

①調査要項

所在地	秋田県由利本荘市尾崎
調査期間	令和6年6月4日～7月25日
調査面積	150㎡（4,200㎡のうち）
遺跡の時代	縄文時代、平安時代、中世、近世
遺跡の性格	散布地（縄文時代・平安時代）、城館跡（中世・近世）
事業名	国道107号建設事業
事業関係機関	秋田県由利地域振興局建設部
調査担当	山村剛、山田祐子

②調査概要

検出遺構			主な出土遺物
中世	郭	1か所	縄文時代 土器 石器（石鏃・楔形石器・敲石・剥片）
	切岸	1か所	
	空堀	2条	
近世	郭	1か所	中・近世 陶磁器（珠洲系、肥前） 銭貨
	切岸	1か所	

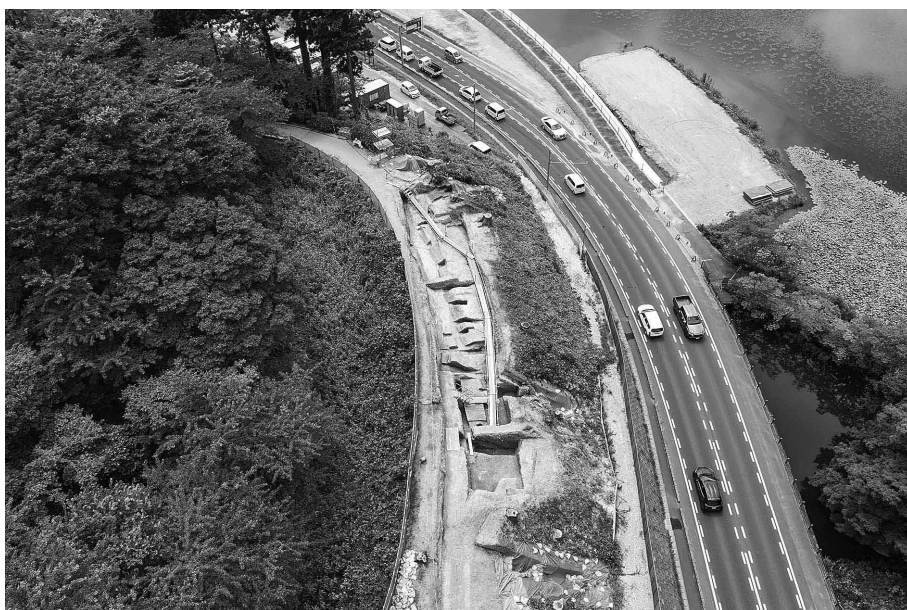
本荘城跡は、現在の本荘公園、由利本荘市役所南に隣接した標高30m、子吉丘陵先端部の独立丘に立地する。

平成13～19年の由利本荘市による本丸及び三の丸の調査では、本丸から近世の弓櫓跡や板塀等の他、中世の建物跡や井戸跡等が、三の丸から近世のゴミ穴が、それぞれ検出されている。

二の丸を中心とした今回の調査区は、平坦地である郭、それに付随する急斜面である切岸に分かれる。郭の造成については、出土遺物やこれまでの一連の本荘城跡の調査結果から、中世後期（第1期）と本城氏による近世初期（第2期）の2時期あることが確認されている。造成方法としては、自然地形を地山面まで削り、斜面では盛土を安定させるため、地山を一部階段状に掘り下げてから土を盛っていることを確認した。また、調査区中心付近の平坦地は、沢地を埋め立てて盛土造成していたことが判明した。盛土の厚さは、第1期が0.90m、第2期が1.50mで、第2期は第1期より西へ3m近く郭面を拡大させていた。空堀は、第1期の地業で、上幅2.80m、下幅1.08m、深さ1.21m、全長23m以上で、底面は南東端から北西に向かって緩やかに上がり、途中から高度を再び下げ、北西端の沢地へ繋げていることから、一連の防御機能を果たしていたと考えられる。この空堀は作り替えがあり、重複する別の空堀も確認されている。第2期には、具体的な遺構が確認されていない。貞享4（1687）年の様子を描いた絵図では、板塀が郭の縁を巡っているが、調査ではその痕跡は検出されず、公園化に伴い削られたか、礎石や土台石などが撤去された可能性がある。

遺物は、盛土中から縄文土器や石器、珠洲系陶器が出土した。近世期の活動を示す遺物は、表土中からわずかに出土しただけである。これは、調査区付近に番士の在番施設などがなかったことが影響していると考えられる。

過去2年間の調査の結果、本荘城の築城技術の一端が明らかになった。今後、他の城館と比較することで、地域や時代による築城技術の特徴や違いが明らかになるであろう。



調査区近景（北から）



造成土の堆積状況
（南から）



調査区近景（南から）

(6) 上宮ノ沢遺跡

①調査要項

所在地	秋田県男鹿市男鹿中山町字上宮ノ沢
調査期間	令和6年5月28日～8月2日
調査面積	720m ²
遺跡の時代	縄文時代
遺跡の性格	集落跡
事業名	地方道路交付金工事一般国道101号建設事業
事業関係機関	秋田県秋田地域振興局建設部
調査担当	宇田川浩一、櫻庭悦央

②調査概要

検出遺構			主な出土遺物	
縄文時代	竪穴建物跡	2棟	縄文時代	土器（円筒下層a～b式） 石器（石鏃、石錘、削器、石錐など）
	焼土遺構	2基		
	土器埋設遺構	2基		
	捨て場	2か所		

上宮ノ沢遺跡は、東を滝川、西を小増川に挟まれた標高35m前後の台地南斜面に立地する。滝川に向かって南東側へ開析された支谷にあり、台地の上部平坦面を超えた北側は日本海へ下る斜面となる。

遺跡の帰属時期は、約6,000年前の縄文時代前期、円筒下層a式期を主体とし、少量の円筒下層b式と中期の円筒上層式が含まれる。

調査の結果、竪穴建物跡2棟、焼土遺構2基、土器埋設遺構2基、捨て場2か所の合計8遺構を検出した。遺物は土器と石器が多く出土した。中でも漁網錘と砥石が目立つ。

竪穴建物跡は、斜面を削り込んで床面を造るため、谷側の壁を欠き、ちりとり状を呈する。基盤層が未固結泥岩と砂層であり、斜面下側から浸食を受けて急速に削られていくため、2基の焼土遺構も浸食された竪穴建物跡の地床炉が残存したものである可能性が高い。2棟の竪穴建物跡と焼土遺構が、およそ4～6mの間隔でバランスよく並んでいることも、蓋然性を高める。

また、竪穴建物跡と焼土遺構は地山と同じ黄色土で埋められており、捨て場の堆積土が黒色土であるのとは対照的で、埋没に時間差があることを示唆する。

竪穴建物跡や焼土遺構、土器埋設遺構は黄色砂質土で埋まることから、これらはほぼ同時に使われていたと推定される。集落開拓時に裸地となった黄色い地面に住居が設けられ、土があまり黒くならないうちに廃絶して埋め戻された後、おそらく台地上の平坦面（調査区外）に居住域が移動し、斜面と谷が廃棄場となったものであろう。このときには居住域周辺の植生が復活しており、捨て場の形成には、遺物の廃棄と同時に土砂も自然的・人為的に移動し堆積したと考えている。興味深いことに、捨て場を埋める堆積土中には薄く地山由来の黄色土が堆積した面が形成されていた。これは、台地上での裸地造成と土砂廃棄、または土壌浸食を示す。

また、斜面には薄い焼土面が広く形成されており、生産活動の一部として火入れが行われた可能性がある。

空中写真（南から）



竪穴建物跡（北から）



捨て場調査状況



(7) 岩ノ下遺跡

①調査要項

所在地	秋田県由利本荘市鳥海町百宅字岩ノ下
調査期間	令和6年7月30日～10月31日
調査面積	3,700㎡ (5,000㎡のうち)
遺跡の時代	中世・近世
遺跡の性格	散布地 (中世)、集落跡 (近世)
事業名	鳥海ダム建設事業
事業関係機関	国土交通省東北地方整備局鳥海ダム工事事務所
調査担当	巴亜子、山村剛

②調査概要

検出遺構				主な出土遺物	
近世以降	土坑	11基	焼土遺構	1基	中世 珠洲産陶器 中国産青磁
	溝跡	7条	柵列	2条	近世以降 陶磁器 (肥前・瀬戸・美濃)、
	柱穴様ピット	128基	性格不明遺構	1基	銭貨、礫石経、金属製品 (キセル)、木簡、木製品 (下駄、
					きゃしぎ※雪かき櫛入れ等に使用)、柱材

岩ノ下遺跡は、由利本荘市鳥海総合支所直根出張所の南3kmに位置し、標高396～398mの子吉川支流百宅川右岸の低地に立地する。調査区は、高低差により北側の上段と南側の下段に区分される。調査対象面積は5,000㎡であり、今年度は下段3,700㎡を調査した。遺跡の70m南には百宅川が南東から北西に向かって流れ、2km先で子吉川に合流する。遺跡の南440mには中世城館の根井中後山館跡が、西1.8kmには令和3年度の発掘調査で近世の墓域が確認された清水沢遺跡が位置する。

調査の結果、中世の遺物と近世以降の遺構・遺物を検出した。

中世では、珠洲産陶器や中国龍泉窯系の青磁が遺構外より出土している。

近世では、調査区中央付近に位置する楕円形の柱穴様ピットから、事前調査を含めて銭貨が15枚出土した。銭貨は、遺構の壁面に沿って多く確認され、うち5枚は錆で癒着した状態で覆土上部から出土し、紐通しされていたと考えられる。文字の確認できる銭貨は、「太平通寶」や「慶元通寶」など8枚の北宋銭で、葬送や地鎮に伴うものと想定される。

調査区東側では、幅4～6m、長さ20.1mの南北方向に伸びる溝跡を確認した。埋土からは近世陶磁器の他、木簡、下駄、櫛などの木製品や礫石経が出土した。木簡は、幅28mm、長さ135mm、厚さ5mmの板材に『赤 (亦) カ与■呂カ』と墨で記されている。両端が欠損しており、前後にも文字が続くと想定される。礫石経は、直径25mm程の基石のような礫に、経典の文字が記されたものである。両面に判読不能であるが、複数の文字が記されており、当地における宗教観を示す資料となろう。

今回の調査によって、山間の高地で営まれた近世以降の人々の暮らしや習俗についての資料を得ることができた。今後、清水沢遺跡との比較や百宅地区の民俗資料・文献等の調査といった総合的な検討を加え、遺跡の性格を明らかにしたい。

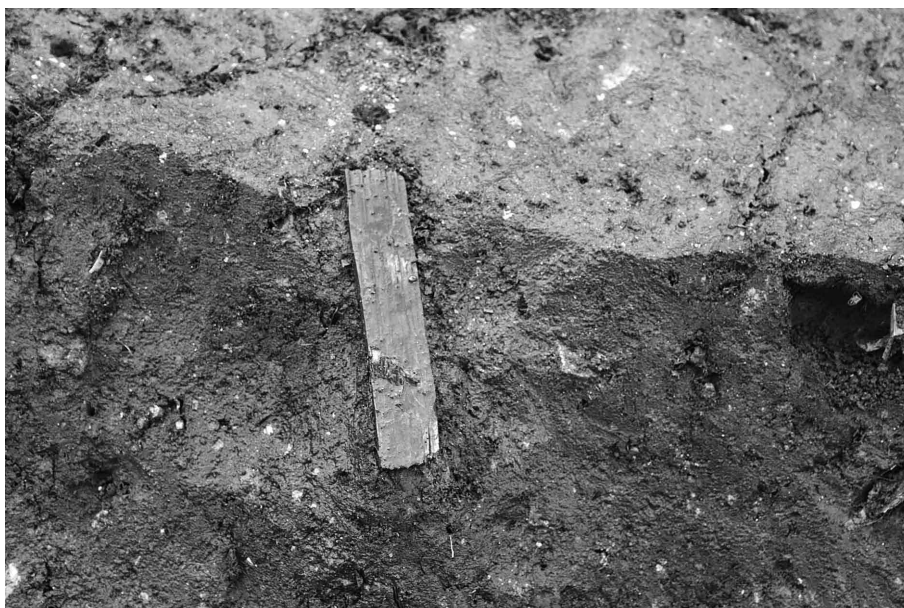
岩ノ下遺跡遠景
(北東から)



柱穴様ピット
銭貨出土状況
(東から)



溝跡木簡出土状況
(南から)



(8) 道女木遺跡

①調査要項

所在地	秋田県秋田市雄和種沢字道女木
調査期間	令和6年7月9日～11月20日
調査面積	2,400㎡ (5,100㎡のうち)
遺跡の時代	縄文時代、中世
遺跡の性格	集落跡(縄文時代、中世)、狩猟場(縄文時代)
事業名	雄物川水系直轄河川事業
事業関係機関	国土交通省東北地方整備局秋田河川国道事務所
調査担当	武藤祐浩、宇田川浩一、乙戸崇

②調査概要

検出遺構				主な出土遺物	
縄文時代	焼土遺構	101基	配石遺構	11基	縄文時代 縄文土器 土製品 石器 石製品
	炭化物集中範囲	46基	土坑	16基	
	陥し穴状遺構	3基			
中世	カマド状遺構	7基	井戸跡	1基	中世 陶器
	土坑	14基	溝状遺構	1条	
	柱穴様ピット	122基			

道女木遺跡は、秋田空港の南南西3.5km、日本海に注ぐ雄物川の河口から南東17.1kmの地点に位置する。県南部から北西に流れる雄物川は、遺跡の下流側で大きく蛇行するが、遺跡はその右岸に形成された標高11～14mの自然堤防上に立地している。今年度は、調査対象5,100㎡のうち、下流側を調査し、遺跡が縄文時代と中世の複合遺跡であることが分かった。

表土の下20cm程で検出されたカマド状遺構は、焚口から煙道まで全体が良く遺るものや、燃焼部の底部しか遺らないものなど7基である。調査区中央部に5基、南側に2基の2か所にまとまることから中世の場の使われ方を反映したものと考える。

中世の遺構を検出した面と同じ深さでは、縄文時代の陥し穴状遺構も3基検出した。開口部の平面形は、長楕円形と円形のものがある。周辺で円筒上層c式の土器が出土しており、縄文時代中期のものと考えられる。中世の遺構も同じ地面で検出したことから、遺跡付近は縄文時代中期にはほぼ現在の地形になっていたことが分かった。

今年度の調査では、その下に厚く堆積した土層から、焼土遺構101基、配石遺構11基などを検出した。焼土遺構は、火を焚いたために周りの地面が赤く変色したものである。本遺跡では、一つの焼土遺構の下に、褐色の間層を挟んで、別の焼土遺構が検出された所が複数ある。焼土遺構が検出される旧地表面は、少なくとも6面あることを確認しており、最下層の焼土遺構確認面は現在の地表面から4m程下にあった。遺跡付近の地層は、褐色土層と砂層が交互に重なり、度重なる河川氾濫によって形成されたものと考えられる。ある時期の活動で焼土ができ、その後の河川氾濫の時期に遺跡から離れ、離水して活動可能になると再びこの地で活動した結果と考えられる。縄文時代中期以降の安定した地面より下の堆積層から出土した土器には、早期後葉から前期前葉のものがあることから、遺構群はその頃の活動を示すものである。

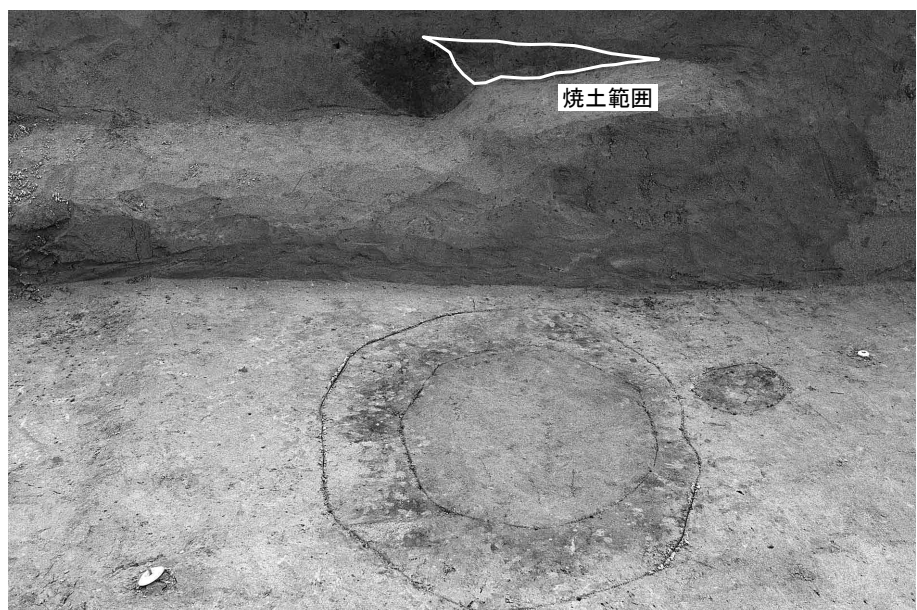
遺跡遠景（南から）



カマド状遺構精査状況
（南西から）



壁面と平面にある
焼土遺構の検出状況
（北西から）



第2節 活用・普及事業

1 活用・普及事業一覧表

事業名は簡略化

	事業名	主な内容	開催時期など	対象
見学	遺跡現地見学会	本荘城跡	7 / 20	一般
		道女木遺跡	9 / 7	一般
展示	企画コーナー展	埋文あきた発掘展 ～秋田の新たな歴史の1ページ～	4 / 26～3 / 31	一般
		あきた埋文 出張展示	7 / 13～8 / 13	一般
		土器に生ける秋の草花展	10 / 5～10 / 14	一般
		古代城柵・弘田柵跡と横手盆地の集落遺跡	1 / 25～3 / 16	一般
講演会・講座	講演会	あきた遺跡発掘最前線！2024	3 / 1～3 / 11	一般
		遺跡から読み解く縄文人の世界観	10 / 14	一般
	あきた埋文 考古学セミナー	新しい研究方法からみた縄文時代の生業と社会	11 / 4	一般
		秋田の縄文文化 一北と南一	7 / 13	一般
		秋田の縄文文化 一北と南一	9 / 14	一般
	あきた埋文 金曜講座	秋田の縄文文化 一北と南一	11 / 30	一般
		縄文時代の横手盆地	6 / 7	一般
		深澤多市と弘田柵跡～深澤多市書簡からみる史跡 指定の経過	7 / 5	一般
		出土文字資料からみる秋田	8 / 2	一般
		律令官人の栄養学～横手盆地の出土土器と文字資 料から～	9 / 6	一般
		地中レーダー探査から読み解く雄勝城	10 / 4	一般
		三種町堂の下遺跡と八郎潟周辺の遺跡	11 / 1	一般
		縄文時代の盛土遺構～秋田県能代市茱萸ノ木遺跡 を中心に～	12 / 6	一般
		アキタにヒトがやってきた頃の話～雄物川下流域 における後期旧石器時代前半期の研究～	1 / 10	一般
		横手市の遺跡から見る後三年合戦	2 / 7	一般
	発掘調査報告会	今年度の県内遺跡発掘調査成果報告	3 / 8	一般
	県庁出前講座	発掘調査成果の講座等	通年	一般
体験教室	オープンラボ	農業科学館バラフェスタ	6 / 8	小～一般
		弘田柵跡ふるさと体験ワークショップ	7 / 24	小/親子
		さとびあ体験教室 縄文体験	7 / 30	小/親子
		さとびあ体験教室 縄文デイキャンプ	10 / 5 * 中止	一般
		農業科学館オータムフラワーフェスタ	10 / 26	小～一般
		各種体験教室	通年	小～一般
学校・研修等	弘田柵跡関連	弘田柵跡の歩き方	7 / 27	小/親子
	セカンドスクールの利用	センター内・出土品見学、体験学習、出前授業等	通年	小/中/高
	インターンシップ 職場体験	出土品整理作業や活用・普及事業等の職場体験	通年	小/中/高/大
	博物館実習	考古資料の取り扱い、展示等	本年度なし	大
貸出	中堅教諭等資質向上研修	施設・出土品見学、出土品整理作業体験等	7 / 23・7 / 30 7 / 31・8 / 1	教員
	貸し出しキット等	体験キット、映像資料等の貸し出し	通年	学校等
	資料貸し出し	収蔵資料の貸し出し、掲載許可	通年	一般
	レファレンス	県内の埋蔵文化財等に関する質問受付	通年	一般

2 遺跡現地見学会

安全が確保された遺跡において発掘調査中の適切なタイミングで現地見学会を実施し、遺跡の発掘現地において調査成果を県民に公開した。

(1) 本荘城跡	期日：令和6年7月20日(土)	会場：由利本荘市	来場者：33人
(2) 道女木遺跡	期日：令和6年9月7日(土)	会場：秋田市	来場者：60人

3 展示

(1) 常設展

これまでに発掘調査した遺跡の資料から特徴的なものを厳選し、旧石器時代から江戸時代まで時代順に展示した。

	開館時間	見学可能箇所(※は職員の案内によって可能)
平日	9:00～16:00	特別展示室・第1収蔵庫(※)・整理室(※)・中央調査班展示室
土・日・祝日	9:00～16:00	特別展示室

(休館日：1月1日～3日、成人の日、建国記念の日、春分の日、12月28日～31日)

(2) 企画コーナー展

特別展示室の4分の1を利用してテーマ展示を実施した。

テーマ：『埋文あきた発掘展 ～秋田の新たな歴史の1ページ～』
期 間：令和6年4月26日(金) ～令和7年3月31日(月)
来場者：1,085人

埋蔵文化財に対する理解・浸透を図るために、当センターが発掘調査した遺跡の中で、発掘調査報告書を刊行した6遺跡について、解明した研究成果を広く県民に公開した。



展示状況

(3) あきた埋文出張展示

埋蔵文化財センター以外の会場で当センター収蔵資料やその地域の埋蔵文化財に関する最新情報などを展示し、地域の歴史や文化、埋蔵文化財に対する理解を深めた。

『弘田柵跡調査成果展』
期間：令和6年7月13日(土)～8月13日(火)
会場：秋田県立図書館 来場者：1,517人

約半世紀にわたる弘田柵跡の調査成果について、弘田柵跡調査事務所収蔵資料から、城柵運営の各期資料を並べ、造営から衰亡に至る流れが分かりやすい展示を実施した。



展示状況

『土器に生ける秋の草花展』

期間：令和6年10月5日（土）～10月14日（月）

会場：秋田県立農業科学館ホワイエ 来場者：2,412人

農業科学館のボランティアの方々より、センターで所蔵する土器に秋を感じさせる草花を生けてもらい展示した。今年度は池内遺跡（大館市）、茱萸ノ木遺跡（能代市）、八木遺跡（横手市）、堀ノ内遺跡（湯沢市）、虫内Ⅰ遺跡（横手市）の縄文土器を使用した。準備や運営にあたり、県立農業科学館に協力をいただいた。



展示状況

『古代城柵・払田柵と横手盆地の集落遺跡』

期間：令和7年1月25日（土）～3月16日（日）

会場：雄物川郷土資料館 来場者：573人

払田柵跡と横手市域の発掘調査成果について、写真パネルと出土資料を並べることで、各遺跡の関わりを分かりやすく展示した。



展示状況

『あきた遺跡発掘最前線！2024』

期間：令和7年3月1日（土）～3月11日（火）

会場：秋田県立図書館 来場者：1,971人

秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会にあわせ、秋田県教育委員会及び市町村教育委員会、民間団体が今年度発掘調査を行った遺跡の出土品を展示公開した。多くの方に調査状況や埋蔵文化財に対する理解を深めてもらうため、報告会前後の期間に設定した。準備や運営にあたり、県立図書館や各市町村及び民間の調査機関に協力をいただいた。



展示状況

4 講演会・講座

（1）講演会

当センター主催で、県内の考古学に関わる講演会を開催した。

第1回

開催日：令和6年10月14日（月） 会場：あきた芸術劇場ミルハス 参加者：73人

演題：「遺跡から読み解く縄文人の世界観」

講師：國學院大学 教授 谷口康浩氏

谷口氏は、「柄鏡形敷石住居と環状列石」、「墓制にみる死生観・他界観」、「二至二分の認識と再生観念」の視点から、様々な遺跡の調査事例や民俗事例を紹介し、空間認識から見える世界観、祖先や他界観念と結びついた血縁関係、季節または循環・再生への理解などについて講演した。講演を通して、縄文人の精神世界と遺跡として残る様々な施設との関係について、具体的に考えることができた。



講演会の様子

第2回

開催日：令和6年11月4日（月） 会場：あきた芸術劇場ミルハス 参加者：79人

演 題：「新しい研究方法からみた縄文時代の生業と社会」

講 師：東京都立大学 教授 山田康弘氏

山田氏は、縄文時代研究における生業の考え方を整理し、出土道具類や動植物遺体、食料加工施設やクリ林の痕跡などの紹介を通して、生業研究の多様なアプローチを示した上で、新たな研究手法である出土人骨の同位体比較によって食性の違い、さらには移住者や社会的役割の違いなどが浮かび上がることにについて講演した。

講演を通して、研究手法が増えることにより、縄文時代の各集団構成の差異やその背後にある出自や役割に考察が及ぶことを詳しく知ることができた。



講演会の様子

（2）あきた埋文考古学セミナー

本県の埋蔵文化財への理解を深めるためのセミナーを開催した。実施したセミナーは次のとおりである。

①「秋田の縄文文化―北と南―」

開催日：令和6年7月13日（土） 会場：にかほ市象潟公民館

参加者：15人

講 師：新海和広（資料管理活用チーム副主幹）

②「秋田の縄文文化―北と南―」

開催日：令和6年9月14日（土） 会場：秋田市農山村地域活性化センターさとびあ

参加者：8人

講 師：新海和広（資料管理活用チーム副主幹）

③「秋田の縄文文化―北と南―」

開催日：令和6年11月30日（土） 会場：大館市立中央公民館

参加者：22人

講師：新海和広（資料管理活用チーム副主幹）



考古学セミナー①（にかほ市）の様子



考古学セミナー③（大館市）の様子

（3）あきた埋文金曜講座

本県の埋蔵文化財への理解を深めるために考古学や歴史学、民俗学などを題材に学ぶ。本年度は、当センター第1研修室を会場に次のとおり実施した。

①「縄文時代の横手盆地」

開催日：令和6年6月7日（金）

参加者：21人 講師：新海和広（資料管理活用チーム副主幹）

②「深澤多市と払田柵跡 ～深澤多市書簡からみる史跡指定の経過」

開催日：令和6年7月5日（金）

参加者：25人 講師：渡部猛氏（秋田県立博物館学芸主事）

③「出土文字資料からみる秋田」

開催日：令和6年8月2日（金）

参加者：23人 講師：伊豆俊祐氏（秋田県教育庁生涯学習課文化財保護室文化財主査）

④「律令官人の栄養学 ～横手盆地の出土土器と文字資料から～」

開催日：令和6年9月6日（金）

参加者：28人 講師：藤原正大氏（横手市教育委員会文化財保護課埋蔵文化財係主任）

⑤「地中レーダー探査から読み解く雄勝城」

開催日：令和6年10月4日（金）

参加者：28人 講師：高橋学氏（雄勝城・駅家研究会代表）

⑥「三種町堂の下遺跡と八郎潟周辺の遺跡」

開催日：令和6年11月1日（金）

参加者：24人 講師：磯村亨（所長）

⑦「縄文時代の盛土遺構―秋田県能代市茱萸ノ木遺跡を中心に―」

開催日：令和6年12月6日（金）

参加者：21人 講師：大上立朗（調査チーム文化財主事）

⑧「アキタにヒトがやってきた頃の話 ―雄物川下流域における後期旧石器時代前半期の研究―」

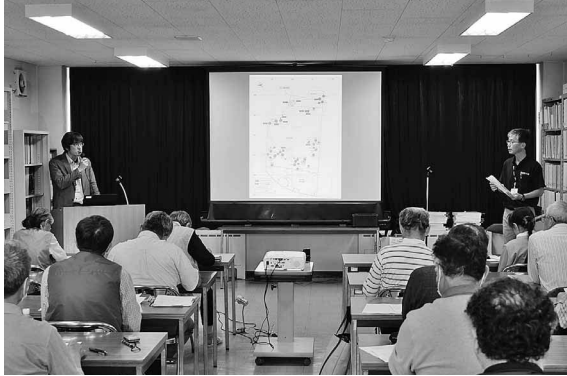
開催日：令和7年1月10日（金）

参加者：12人 講師：神田和彦氏（秋田市立秋田城跡歴史資料館主席主査）

⑨「横手市の遺跡から見る後三年合戦」

開催日：令和7年2月7日（金）

参加者：20人 講師：島田祐悦氏（横手市教育委員会文化財保護課上席副主幹）



金曜講座①の様子



金曜講座⑥の様子

（４）あきた県庁出前講座

県民の要請に応じて県職員が講師を務め、さまざまな情報提供等を通じて県事業等への理解を深めていただくとともに、生涯にわたる多様な学習機会の充実を図ることを目的としている。埋蔵文化財センターでも特長をいかした講座を行った。

①講座番号：187 講座名：「縄文クラフト講座」

開催日：令和6年4月4日（木） 会場：運動学習支援教室ふれんず秋田南教室（秋田市）

参加者：6人

講師：堀川昌英（資料管理活用チーム主任学芸主事）

柴田浩一（資料管理活用チーム学芸主事）

②講座番号：188 講座名：「考古学体験Ⅰ」

開催日：令和6年5月22日（水） 会場：秋田県立平成高等学校（横手市）

参加者：11人

講師：新海和広（資料管理活用チーム副主幹）

堀川昌英（資料管理活用チーム主任学芸主事）

柴田浩一（資料管理活用チーム学芸主事）

③講座番号：185 講座名：「埋蔵文化財から学ぶ秋田の歴史」

開催日：令和6年6月3日（月） 会場：秋田県立大学木材高度加工研究所（能代市）

参加者：40人

講師：新海和広（資料管理活用チーム副主幹）

④講座番号：188 講座名：「考古学体験Ⅰ」

開催日：令和6年7月29日（月） 会場：みさとこども館（美郷町）

参加者：25人

講師：堀川昌英（資料管理活用チーム主任学芸主事）

柴田浩一（資料管理活用チーム学芸主事）

- ⑤講座番号：188 講座名：「考古学体験Ⅰ」
開催日：令和6年8月1日（木） 会場：中央ふれあい館（美郷町）
参加者：55人
講師：新海和広（資料管理活用チーム副主幹）
堀川昌英（資料管理活用チーム主任学芸主事）
- ⑥講座番号：講座番号：187 講座名：「縄文クラフト講座」
開催日：令和6年8月6日（火） 会場：キッズオアシス（秋田市）
参加者：12人
講師：堀川昌英（資料管理活用チーム主任学芸主事）
柴田浩一（資料管理活用チーム学芸主事）
- ⑦講座番号：講座番号：187 講座名：「縄文クラフト講座」
開催日：令和6年8月22日（木） 会場：あすか児童クラブあきた中央（秋田市）
参加者：35人
講師：新海和広（資料管理活用チーム副主幹）
堀川昌英（資料管理活用チーム主任学芸主事）
柴田浩一（資料管理活用チーム学芸主事）
- ⑧講座番号：185 講座名：「埋蔵文化財から学ぶ秋田の歴史」
開催日：令和6年9月28日（土） 会場：あさくら館（横手市）
参加者：20人
講師：吉川耕太郎（調査チーム副主幹）
- ⑨講座番号：185 講座名：「埋蔵文化財から学ぶ秋田の歴史」
開催日：令和6年11月24日（日） 会場：秋田市農山村地域活性化センターさとぴあ
参加者：7人
講師：吉川耕太郎（調査チーム副主幹）
- ⑩講座番号：185 講座名：「埋蔵文化財から学ぶ秋田の歴史」
開催日：令和7年1月12日（日） 会場：秋田の歴史を学ぶ会
参加者：13人
講師：吉川耕太郎（調査チーム副主幹）
- ⑪講座番号：185 講座名：「埋蔵文化財から学ぶ秋田の歴史」
開催日：令和7年2月22日（土） 会場：大館郷土博物館
参加者：22人
講師：宇田川浩一（中央調査チーム副主幹）
- ⑫講座番号：185 講座名：「埋蔵文化財から学ぶ秋田の歴史」
開催日：令和7年2月25日（火） 会場：大湯ストーンサークル館（鹿角市）
参加者：14人
講師：新海和広（資料管理活用チーム副主幹）

（５）埋蔵文化財発掘調査報告会

秋田県教育委員会及び市町村教育委員会、民間団体の実施した発掘調査成果を広く県民に公開し、埋蔵文化財の保護について理解を深めてもらうことを目的に、昭和56年度から発掘調査報告会を開催している。

令和元・２・３年度と新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止としたが、令和４年度から通常開催を再開した。今年度は令和７年３月８日（土）、仙北ふれあい文化センター（大仙市）を会場として開催した。参加者は120人で、配布資料やスライドを見たり、報告を聞きながらメモを取るなど関心の高さを感じた。報告会にあわせて、出張展示「あきた遺跡発掘最前線！2024」を県立図書館（秋田市）で開催した。

【報告内容】

1 道女木遺跡（秋田市）	中央調査チーム文化財主査 武藤祐浩
2 上野乙遺跡（美郷町）	調査チーム文化財主事 小松和平
3 史跡秋田城跡（秋田市）	秋田市立秋田城跡歴史資料館 平井智規氏
4 造山十足馬場遺跡（横手市）	雄勝城・駅家研究会 高橋学氏
5 史跡弘田柵跡（大仙市・美郷町）	県教育庁弘田柵跡調査事務所文化財主任 小山美紀
6 寺沢遺跡（にかほ市）	調査チーム学芸主事 矢尾健
7 下村遺跡（横手市）	横手市教育委員会 島田祐悦氏
8 長岡森館（美郷町）	美郷町教育委員会 畠山昂大氏
9 本町遺跡（横手市）	調査チーム文化財主事 大上立朗



報告の様子



報告の様子

（６）講座の動画配信

昨年度に引き続き、当センターで行われた講座を動画で記録した。当センターの調査研究成果の普及を図り、YouTube「あきた埋文チャンネル」で配信することで、広く県民が活用できる機会を提供した。

撮影動画

①あきた埋文金曜講座

第１回「縄文時代の横手盆地」

講 師：埋蔵文化財センター 副主幹 新海和広

公開日：令和６年７月１８日（木）

②あきた埋文金曜講座

第６回「三種町堂の下遺跡と八郎潟周辺の遺跡」

講 師：埋蔵文化財センター 所長 磯村亨

公開日：令和7年2月13日（木）

③あきた埋文金曜講座

第7回「縄文時代の盛土遺構―秋田県能代市茱萸ノ木遺跡を中心に―」

講 師：埋蔵文化財センター 文化財主事 大上立朗

公開日：令和7年3月13日（木）

5 体験教室

(1) 主な体験メニューと概要

目 的	活動名	主 な 内 容
縄文の暮らし に親しむ	縄文コースターづくり（縄文染め）	様々な縄文文様や土偶などの形にくり抜いた紙型を麻布に被せ、マジックペンで染め付けていくものである。個人のセンスで様々な色合いの作品に仕上がる。
	弓矢体験	竹刀の廃材を利用した竹材に、たこ糸を張って作った弓で、動物がプリントされた的を射る体験である。的には、縄文人が食べていた様々な動物がプリントされ、体験意欲をかき立てる。
	縄文衣装着用体験	麻布で作った縄文衣装を着用して着心地を確かめてみる体験である。
	火起こし体験	火きり杵（棒）と火きり臼（板）を利用した舞いきり法を中心に実施している。発火にいたらなくても、成功体験が味わえるよう、①摩擦による発煙、②火だねづくり、③火だねからの発火、という3段階のチャレンジとして取り組んでもらうことにしている。また、もみきり法なども紹介している。
	ミニ土器 レリーフづくり	気軽に施文体験ができるよう、型枠に粘土を埋め込んで作ったミニ土器の表面（半面）を各種原体で施文し、オリジナルな土器レリーフを作るものである。
	縄文原体づくり	縄文土器や土偶に文様を施すための縄文原体を紙ひもで作し、粘土に文様を施してみる体験である。
	石器づくり	珪質頁岩や黒曜石を用いて、原石の打ち割りから矢尻やナイフの仕上げまで参加者のレベルに合わせて体験するものである。
	勾玉づくり	勾玉についての事前レクチャーをしたのち、勾玉キットを用いて製作する体験である。
整理作業の おもしろさを 知る	拓本体験	初心者でも安心して体験ができるよう、丈夫な須恵器の破片を利用する。打ち終わった拓本は、乾燥させラミネートする。
	土器復元体験	細かなパーツに分解されたレプリカの土器を文様や割れ口などを手がかりにして組み立て、復元を目指す。

(2) オープンラボ

依頼者側と内容について打ち合わせを行い、次のとおり実施した。

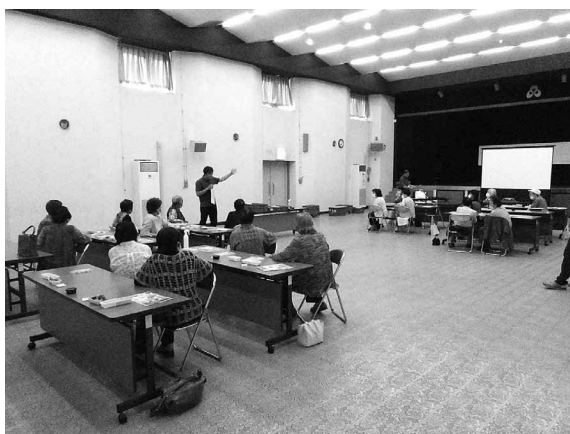
体験教室（児童～一般）

- | | |
|--------------------|------------------------|
| ①開催日：令和6年6月8日（土） | 会場：秋田県立農業科学館（大仙市） |
| ②開催日：令和6年7月23日（火） | 会場：秋田市立桜小学校 |
| ③開催日：令和6年7月24日（水） | 会場：仙北ふれあい文化センター（大仙市） |
| ④開催日：令和6年7月30日（火） | 会場：秋田市農山村地域活性化センターさとぴあ |
| ⑤開催日：令和6年7月31日（水） | 会場：田沢湖公民館（仙北市） |
| ⑥開催日：令和6年8月3日（土） | 会場：秋田県立視覚支援学校（秋田市） |
| ⑦開催日：令和6年9月24日（火） | 会場：八竜公民館（三種町） |
| ⑧開催日：令和6年10月5日（土） | 会場：山の学校北の風（秋田市） ※中止 |
| ⑨開催日：令和6年10月26日（土） | 会場：秋田県立農業科学館（大仙市） |
| ⑩開催日：令和7年1月15日（水） | 会場：障害者支援センター御所野（秋田市） |
| ⑪開催日：令和7年3月24日（月） | 会場：秋田県埋蔵文化財センター |

⑧は会場設備の不具合のため中止とした。

参加者：①136人、②10人、③15人、④13人、⑤13人、⑥8人 ⑦18人 ⑨68人 ⑩18人
⑪4人

内 容：①弓矢、縄文コースターづくり、出土品観察 ②縄文時代の学習、縄文コースターづくり、弓矢、火起こし ③弓矢 ④弓矢、火起こし、勾玉づくり ⑤出土品観察、石器づくり ⑥出土品観察 施文、土器復元、縄文コースターづくり、弓矢 ⑦縄文コースターづくり、ミニ土器レリーフづくり、拓本 ⑨弓矢、縄文コースターづくり、出土品観察 ⑩縄文コースターづくり、ミニ土器レリーフづくり、土器観察・施文、土器復元 ⑪室内整理作業体験（遺構のトレース）



拓本体験



縄文コースターづくり体験

(3) 払田柵跡の歩き方

開催日：令和6年7月27日（土）
会 場：埋蔵文化財センター・史跡払田柵跡
参加者：12人
講 師：酒井浩氏（秋田県森林インストラクター会会長）
吉川耕太郎（埋蔵文化財センター調査チーム副主幹）

史跡公園としての払田柵跡に親しみ、払田柵跡を取り巻く歴史と自然を体感しながら学ぶ活動を2時間にわたり実施した。草花の観察やそれに関わる和歌の紹介、遺跡の見学などを通して、払田柵跡の自然や歴史について学んだ。小雨にもかかわらず、学校の夏季休業中ということもあって小学生を中心とした親子の参加が多く、活況を呈した。



活動の様子

6 学校利用・研修等

(1) セカンドスクールの利用

セカンドスクールの利用は、県教育庁生涯学習課が推進する事業で、教育施設等の人的・物的機能を十分に活用し、学校と教育施設等が一体となって、郷土の自然や文化との触れ合い体験・共同生活体験、各教科や総合的な学習の時間等の取組を複合的に実施する利用方法である。当センターでは、考古資料に触れる体験を中心に、社会科の学習や総合学習等をサポートしている。最近は歴史の学習に関する内容のほかに、センターの仕事内容や専門職員になるための進路などキャリア教育に関する内容も扱っている。また、来所利用に加え、センター職員が学校に資料等を持参して行う出前授業にも対応している。

①利用状況

	小学校	中学校	高等学校	その他	合計
利用件数	22件	2件	3件	2件	29件
利用人数	485人	28人	12人	18人	543人

②活動の具体例

出土品に触れてその特徴や用途などを考える

遺跡から見つかった本物の出土品（土器や石器など）に触れたり、観察しながら特徴や用途を考える。

施文体験

さまざまな施文用具を使い、粘土に縄文土器や土偶に見られる文様をつけてみる。

施設見学

特別展示室や整理作業室、収蔵庫で遺物や整理作業を見学する。

出前授業

縄文時代を中心に出土品を展示し、手で触れて肌で感じたり、観察することを通して各時代の学習を支援したり、地域の遺跡、文化財について紹介する。



施文体験の様子



収蔵庫見学の様子

(2) インターンシップ・職場体験

- | | |
|---------------------------|--------------|
| ①期間：令和6年7月31日（水）～8月1日（木） | 会場：埋蔵文化財センター |
| 生徒：秋田県立角館高等学校2年生1名 | |
| ②期間：令和6年9月10日（火）～9月12日（木） | 中止 |
| 学生：筑波大学人文・文化学群 人文学類3年生1名 | |
| ③期間：令和6年9月18日（水）～9月19日（木） | 会場：埋蔵文化財センター |
| 生徒：大仙市立仙北中学校2年生1名 | |

インターンシップ・職場体験は、埋蔵文化財センターの仕事の体験を通し、勤労観や職業観を育むことを目的としている。対象者の学年や興味・関心に合わせた内容で実施。埋蔵文化財保護行政や埋蔵文化財センターの概要・役割に関する講話の後、施設及び払田柵跡の見学、遺跡出土遺物の洗浄・注記・土器の接合等の整理作業を行った。細かい作業に集中して取り組む姿勢が印象的であった。



注記作業

(3) 博物館実習

今年度は申し込みがなく、実施しなかった。

(4) 中堅教諭等資質向上研修

- | |
|----------------------------|
| ①：期間：令和6年7月23日（火）・7月30日（火） |
| 会場：埋蔵文化財センター・払田柵跡発掘現場 |
| 対象：秋田県立湯沢翔北高等学校教員1名 |
| ②：期間：令和6年7月31日（水）～8月1日（木） |
| 会場：埋蔵文化財センター・払田柵跡発掘現場 |
| 対象：横手市立雄物川小学校教員1名 |



払田柵跡発掘作業

中堅教諭等資質向上研修では、発掘調査や整理作業の体験、文化財等を用いた教材開発、探究活動のデザイン等を行う。今回は払田柵跡等の見学、遺跡出土遺物の注記・土器の接合等の整理作業体験を行った。また実施日を工夫し、払田柵跡の発掘作業への参加を実現できた。実物の遺物が発見される瞬間に立ち会ってもらえたことで、埋蔵文化財に

対する興味・関心がさらに高まることを期待したい。

7 貸し出し

(1) 貸し出しキット等

学校などに教材として活用できる次のキットやDVDの貸し出しを行った。

狩りと漁キット 土器資料キット 調理キット 縄文土器複製キット 竪穴住居キット
原体・粘土キット 縄文衣装キット 火起こしキット 紹介DVD「ようこそ秋田の古代」

古代体験キット・ビデオ・火起こしの貸し出し実績

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
キ ャ ッ プ 貸 出 数	6 件	4 件	2 件
ビ デ オ 貸 出 数	0 件	1 件	0 件
火 起 こ し 貸 出 数	2 件	1 件	0 件

(2) 資料貸し出し

資料の貸し出し・掲載許可等実績

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
所蔵資料貸出数	22件	15件	31件

今年度の内訳

	使用目的（複数利用含む）		
	展示公開	書籍等掲載	研究他
遺 跡 出 土 品	9 件	0 件	0 件
フィルム写真データ	0 件	0 件	0 件
デジタル写真データ	0 件	21件	1 件
そ の 他	0 件	0 件	0 件

(3) レファレンス

当センターでは県内の埋蔵文化財等に関する質問を受け付けている。令和2年度から質問内容の集計を始めた。今年度の県内外からの問い合わせ件数は次のとおりである。

旧石器時代1件、縄文時代1件、弥生・古墳時代0件、古代1件、中近世0件、考古学一般0件、埋蔵文化財センターに関すること4件、その他照会等81件（合計88件）。

第3節 その他の活動

1 図書整理・公開

当センターで発刊した報告書等や他県などから送付された報告書等を登録、配架し、図書の利用環境を整備した。

(1) 全国文化財総覧への公開

秋田県文化財調査報告書第532集「久保田城跡」
 秋田県文化財調査報告書第533集「茱萸ノ木遺跡」
 秋田県文化財調査報告書第534集「赤塚遺跡」
 秋田県文化財調査報告書第535集「横堀中屋敷遺跡」
 秋田県文化財調査報告書第536集「清水沢遺跡」
 秋田県文化財調査報告書第537集「岩坂下遺跡」
 秋田県文化財調査報告書第538集「遺跡詳細分布調査報告書」
 秋田県文化財調査報告書第541集「神田遺跡」
 秋田県文化財調査報告書第542集「北ノ又沢Ⅲ遺跡」
 秋田県文化財調査報告書第543集「小平沢出口遺跡・小佛遺跡」
 秋田県文化財調査報告書第544集「遺跡詳細分布調査報告書」
 秋田県埋蔵文化財センター年報41
 秋田県埋蔵文化財センター年報42

(2) 秋田県立図書館「デジタルアーカイブ」への一般公開

デジタルアーカイブのサービスが令和7年1月31日に終了するとの通知を受け、本年度から全国文化財総覧への公開に一本化し、デジタルアーカイブへの登録を行わないこととした。

2 刊行物

書名	秋田県埋蔵文化財センター年報 42 令和5年度	発行年月	6年8月
内容	秋田県埋蔵文化財センターの令和5年度の事業活動を総括し、沿革、組織・施設、令和5年度の歩み、事業の概要、運営協議会等を記載。事業の概要では、令和5年度に発掘調査した遺跡の概要、活用・普及事業の実績を掲載。		

書名	令和6年度秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会資料	発行年月	7年3月
内容	令和7年3月8日に大仙市で開催した令和6年度秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会の配付資料。令和6年度に県内で発掘調査した遺跡のうち、主要な遺跡の発掘調査成果について、カラー写真と平易な文章で紹介。県内発掘調査遺跡一覧表と遺跡位置図、年表も掲載。A4版カラー30頁。		

遺跡名	神田遺跡	発掘調査年	2年度	発行年月	7年3月
書名	秋田県文化財調査報告書第541集 神田遺跡—国道7号遊佐象潟道路事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ—				
内容	遺跡の時代	縄文時代 近世			
	遺跡の性格	集落・捨て場（縄文時代）			
	検出遺構	縄文時代：竪穴建物跡24棟 土坑33基 フラスコ状土坑1基 土器埋設遺構5基 集石遺構1基 溝跡3条 性格不明遺構3基 柱穴様ピット284基 捨て場1か所			
	出土遺物	縄文時代：縄文土器 土偶 土製品 石器 石製品 近世：珠洲系陶器 瀬戸陶器 肥前陶磁			

遺跡名	北ノ又沢Ⅲ遺跡	発掘調査年	3・4年度	発行年月	7年3月
書名	秋田県文化財調査報告書第542集 北ノ又沢Ⅲ遺跡―成瀬ダム建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ―				
内容	遺跡の時代	旧石器時代 縄文時代 弥生時代 近代			
	遺跡の性格	散布地（旧石器時代） 集落遺跡（縄文時代・弥生時代）			
	検出遺構	縄文時代：土坑7基 焼土遺構1基 配石遺構4基 性格不明遺構2基 弥生時代：土坑1基 柱穴様ピット1基 性格不明遺構1基 近代：焼土遺構1基			
	出土遺物	旧石器時代：ナイフ形石器 縄文時代：土器 石器 弥生時代：土器			

遺跡名	小平沢出口遺跡・小佛遺跡	発掘調査年	3・4年度	発行年月	7年3月
書名	秋田県文化財調査報告書第543集 小平沢出口遺跡・小佛遺跡 ―雄物川河川激甚災害対策特別緊急事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書―				
内容	遺跡の時代	小平沢出口遺跡：縄文時代 中世 時期不明 小佛遺跡：縄文時代			
	遺跡の性格	小平沢出口遺跡：散布地（縄文時代） 集落遺跡（中世） 小佛遺跡：その他（縄文時代）			
	検出遺構	小平沢出口遺跡 縄文時代：土坑5基 中世：カマド状遺構14基 井戸跡2基 時期不明：掘立柱建物跡1棟 柱列1条 柱穴様ピット27基 小佛遺跡 縄文時代：土坑4基			
	出土遺物	小平沢出口遺跡 縄文時代：縄文土器 石器・石製品 中世：須恵器系中世陶器 時期不明：近世陶磁器 鉄関連遺物 小佛遺跡 縄文時代：縄文土器 石器			

書名	秋田県文化財調査報告書第544集 遺跡詳細分布調査報告書	発掘調査年	6年度	発行年月	7年3月
内容	令和6年度に実施した遺跡分布調査と遺跡確認調査の報告。				

3 講演・研究論文等

令和6年5月

〈資料〉小山美紀「館堀城跡」『東北中世の城』 高志書院

令和6年11月

〈論文〉御堂島正・吉川耕太郎「円筒下層式期の土坑墓に副葬された石鏃と異形石槍―石器の加熱処理と被葬者をめぐって―」『古代』第151・152号合併 早稲田大学考古学会

令和6年12月

〈資料〉山村剛「秋田県内の幕末海防施設②～青塚山砲台場について～」『秋田考古学』第68号 秋田考古学協会

令和7年2月

〈資料〉宇田川浩一「久保田城跡三の丸渋江家屋敷出土陶磁器について」『近世陶磁研究会第13回大会資料』

4 職員研修会

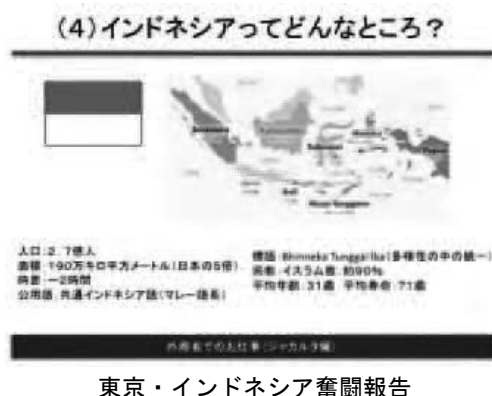
今年度も、「よき公務員、よき社会人、よき人間」となることを目標に職員研修を計画・運営した。人材の育成は常にセンター経営上の課題である。今後も職員間でさらに連携を取りながら、さまざまな研修を計画・運用することが求められる。

(1) 職員研修

- ①期 日 令和6年6月28日(金)
- ②場 所 埋蔵文化財センター(中央調査チームへオンライン中継)
- ③講 師 久住駿介 文化財主事
- ④研修内容 「東京・インドネシア奮闘報告」

人材交流事業により、令和2年4月～令和6年5月まで外務省へ派遣された、久住文化財主事の報告を職員で共有した。外交実務研修員として霞ヶ関の世界遺産班で苦闘する様子、三等書記官としてインドネシアで奮闘する様子が熱く語られた。

また、昨年度から課題であったGoogle meetによるオンライン中継を行い、Web会議の実用性を確認した。



(2) 職員技術研修会

今年度は実施しなかった。

(3) 職員研修

- ①期 日 令和6年12月20日(金)
- ②場 所 埋蔵文化財センター
- ③講 師 大泉真 副所長
- ④研修内容 「ききなしのすすめ」

発掘現場における周辺環境をより理解するために、人生を心豊かに生きるためにという目的で、「ききなし」を通じて鳥の鳴き声に注意を傾ける訓練を行った。各自「ききなし」作りに挑戦の後、鳴き声を判別する演習を通じ、音に対する鋭い感覚と意識を養った。



ききなしのすすめ

(4) 防災・避難訓練、救急救命講習

実施日: 令和6年5月23日(木) 防災・避難訓練(地震・火災) / 中央調査班※栗田支援学校合同
実施日: 令和6年10月25日(金) 防災・避難訓練(地震・火災)・救急救命講習 / 本所
実施日: 令和6年11月28日(木) 防災・避難訓練(地震・火災) / 中央調査班※栗田支援学校合同

(5) 全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会北海道・東北ブロック会議

期間：令和6年11月14日（木）～11月15日（金）

会場：多賀城市埋蔵文化財調査センター

視察：多賀城市埋蔵文化財調査センター展示室・特別史跡多賀城跡

事前に十分な準備がなされており、スムーズな運営によって進められた。会議では昨年度に引き続きインボイスや猛暑等への対応が話題となるほか、3Dデータの導入実績や課題、デジタルデータの管理方法、調査員の技術向上・育成、近代の埋蔵文化財包蔵地の取り扱いなどについて、活発な意見が出され情報交換が行われた。視察では多賀城市埋蔵文化財調査センター展示室と現在再整備中の多賀城跡を見学した。特に多賀城跡の視察では、最新調査成果に基づいた整備や広大な面積の管理面の現状と問題点を説明していただき、保存と活用の実際について理解が深まった。



多賀城跡外郭南門復元

第5章 運営協議会

- 1 委員：小松正夫委員長、栗林靖雄副委員長、大阪瑞穂委員、北野悟委員、小坂靖尚委員
佐々木淳一委員、星野友実委員、武藤浩紀委員、山崎裕子委員、渡部育子委員
- 2 事務局：磯村所長、大泉副所長、佐々木総務チームリーダー、吉川調査チームリーダー
村上中央調査チームリーダー、新海資料管理活用チームリーダー、堀川主任学芸主事
- 3 第1回：令和6年6月11日(火) 14:00～15:55

- (1) 案件 ① 令和5年度事業報告
② 令和6年度事業計画
③ 本年度の事業等についての提言

- (2) 意見・提言・要望等（抜粋）

- オープンラボの参加人数も集計に反映できるように。他の新しい取り組みもカウントできるようにしていただきたい。
- 講演会のPRに力を入れてもらいたい。他にもイベント活動を行うことがあれば、地域振興局でもSNSで宣伝可能。広報に関して要望があれば協力したい。
- 展示の解説文は大人が読むとすぐに分かる。子どもたちも見えていくことになると思うが、意外と漢字が読めないなので、ふりがなをもう少しつけていただきたい。
- 素晴らしい遺跡があること、近くに古代のものがあることが勉強になる。埋蔵文化財センターでもいろいろな企画をしてくれており、ありがたい。
- 低学年の子どもでも見学させてもらえてありがたい。どんどん歴史を学べる場になっていければと思う。
- 体験を通して学ぶことは小学生の学習では大切なこと。職場体験として来る意味も非常に大きく、働くことの意識を育てていきたいと思うし、そのような機会をこれからも持っていただきたい。
- 新しい試みと継続していくものと取捨選択していかなくてはいけない。事業の進め方など、方向性で迷ったときにこの運営協議会で問いかけをするようなことがあってもよいのではないかな。報告だけでなく、そのようなやりとりができる運営協議会になればと思う。
- 埋蔵文化財センター40周年について「土に聴け」に集約されており素晴らしい。次の50周年に向けて、今からセンターの建物の建て替えを視野に入れて取り組んだらどうか。
- 金曜講座はこれだけのメンバーでこれだけの内容で講演するのに、会場が埋蔵文化財センター第一研修室（定員24名程度）だけではもったいない。

- 4 第2回：令和7年2月3日（月） 14:00～15:35

- (1) 案件 ① 令和6年度事業報告
② 第1回運営協議会における提言と対応について
③ 令和7年度事業計画案

- (2) 意見・提言・要望等（抜粋）

- 地域振興局ではPRする内容を連絡いただければ協力できる。ポスターの展示やチラシ配布もあるが、SNSも活用していただきたい。
- 小学校に来ていただいたときに、本当に子どもたちは地域にこんなにも誇れる遺跡があるということ

とに気が付いた。いろいろなところに貸し出される素晴らしい展示品があることも教えていただき、目を輝かせていた。地域のよさを知ることは本当に大切であると思うし、残らなくても地域を大切にする、応援することにつながると思う。いろいろな歴史を掘り起こして、提供していただきたい。

○セカンドスクールや出前授業、体験活動とあるが、中高生はほとんど来ない。大変カリキュラムが忙しい中、払田柵跡に来て勉強するとなると数時間は要する。自治体のバスを利用できることは少なく、別のことに使われている。それなら夏休みに何かできないものかと思う。

○木簡に関連して、払田柵跡から漆紙文書が出土する可能性も考えられるので、できるだけ正確な情報を得る上でも赤外線テレビカメラの購入を検討してほしい。備品に優先順位を付けて予算を付けることを提言したい。

○YouTubeのチャンネルがあることを知った。子どもたちも見ているので、情報発信する一つのツールとして有効ではないかと思う。今年度実施した2回の大学の先生の講演会についても、可能な範囲であげてもらえれば情報発信になる。

○子どもたちは学習の一環として何か調べようとする、手っ取り早い手段としてホームページを見る。埋蔵文化財センターのホームページを見ると3Dデジタルがあり、大変驚いている。子どもにとっていろいろな形で興味を引くものがあると思うので、ホームページの工夫を今後も継続してくださればありがたい。

○地域住民も含めた様々な人たちも、発掘の発表なり、研究に触れる機会があれば、非常に興味深く思うのではないかと考えている。

○埋蔵文化財センターには、考古学と触れ合う扉を開けていただくような役目を果たしてもらうことができれば非常にうれしい。

○YouTubeはすごく良い企画だ。常連の人がいるという話も聞いた。テレビ放映として楽しませてもらっているし、勉強にもなる。どんどん推進してほしい。

令和6年度 職員名簿

	職 名	氏 名
	所長	磯 村 亨
	副所長	大 泉 真
総務チーム	副主幹（兼）チームリーダー	佐々木 敬 隆
	副主幹	高 橋 皇 司
	専門員	佐 藤 広 文
	主査	皆 川 哲
	主事	佐々木 美 晴
調査チーム	副主幹（兼）チームリーダー	吉 川 耕太郎
	学芸主事	矢 尾 健
	文化財主任	赤 星 純 平
	（兼）文化財主任（本務：払田柵跡調査事務所）	小 山 美 紀
	文化財主事	久 住 駿 介
	文化財主事	小 松 和 平
	文化財主事	大 上 立 朗
	文化財主事	結 城 智
資料管理活用 チーム	副主幹（兼）チームリーダー	新 海 和 広
	主任学芸主事	堀 川 昌 英
	学芸主事	柴 田 浩 一
	学芸主事	千 葉 学
中央調査チーム	主任文化財専門員（兼）チームリーダー	村 上 義 直
	主査	高 橋 麻 衣
	副主幹	宇田川 浩 一
	学芸主事	櫻 庭 悦 央
	学芸主事	山 村 剛
	文化財主査	武 藤 祐 浩
	文化財主査	山 田 祐 子
	文化財主査	巴 亜 子
	文化財主任	富 樫 那 美
	文化財主任	乙 戸 崇

秋田県埋蔵文化財センター年報43

令和6年度

発行 令和7年8月

秋田県埋蔵文化財センター

〒014-0802 大仙市払田字牛嶋20番地

電 話 (0187) 69-3331

F A X (0187) 69-3330

U R L <https://common3.pref.akita.lg.jp/maibun/>

